



北数教高校部会だより

北数教高校部会事務局
北海道札幌東高等学校
〒003-0809 札幌市白石区
菊水9条3丁目1
TEL. 011-811-1919

今回は11月に行われた「数学教育実践研究会」の活動をお知らせします。今回は対面での実施でした。

- 「第127回数学教育実践研究会」
(日時) 令和5年11月25日(土)
【講演】当たる天気予報は存在する!?
気象技術の最前線
講師：気象予報士・防災士
菅井 貴子様



講演では、学生時代の話から始まり、

- 気象予報士としての1日
- 北海道の気候多様性
- 昨今の気象技術
- 気象災害(リスク)に繋がる要因
- 当たる天気予報

について具体例を交えながらご講演いただきました。講演時間の90分があつという間に過ぎていき、各トピックについて、講演を1回ずつお願いしても良い位の内容の濃さでした。

中盤では、「高度5500m付近の様子が大変なこと」「長期予報に関わるアンサブル予報のこと」「冬場の北海道の天気図における等圧線の本数・風向きと、風雪の関連」など気象予報のミニマムを理解することができました。

また、TV放送では「お天気のマークが最優先で、 $+\alpha$ のコメントをあまり挟めない」という話が印象的でした。「社会が結論を急いでいるのでは?」という菅井さんの感想を伺って、「生徒も思考過程より答えを知りたがる傾向」が強まっているなと思いました。

終盤は気象災害のリスクの話でしたが、具体的な事例に基づく解説を伺いながら、災害大国日本における防災教育の重要性を改めて感じました。

自然科学教育に携わるものとして、「広く教養を身につけ客観的に思考することで、日々の生活を豊かにすることができ、また、危機管理にも繋がる」ことを生徒に伝えていきたいなと感じました。

【レポート発表】

後半は、15本のバラエティに富んだ研究・実践発表がありました。

「二度美味しいニュートン法」

数実研会員 安田 富久一

「動く曲線で遊んでみる」

数実研会員 安田 富久一

「どうmathる?~十分条件と必要条件の授業~」

美深高等学校 小川 尚也

「無理数であることの証明【背理法を使わずに】」

網走桂陽高等学校 阿部 卓朗

「高校数学における探究活動の指導について」

留萌高等学校 加藤 真

「多変数関数の最小値を求める問題について」

数実研会員 時岡 郁夫

「正三角形と辺や円弧によって囲まれた図形内の4円の半径」

数実研会員 時岡 郁夫

「とりとめのない数学の話⑥」

美深高等学校 大谷 健介

「Drone-Schemaによる2次関数の最大-最小の小手技」

数実研会員 中村 文則

「mathtemplate(データの分析、作図等6題)」

数実研会員 中村 文則

「メイクる数学「Droneで最大-最小を空撮」」

数実研会員 中村 文則

「一次不定方程式。kは整数をなくしたら?」

札幌創成高等学校 外山 尚生

「チェックデジットについて考えてみた」

小樽桜陽高等学校 天野 俊介

「最近の教材事情 ver6」

士別翔雲高等学校 吉田 奏介

「曲線を愛でつつOne more thing」

札幌南高等学校 長尾 良平

なお、終了後には4年ぶりに対面での懇親会も開催しました。その場では、10年以上に渡って北大での開催にご尽力いただいた、北大の神保先生に「謝意を伝える会」も併せて行いました。神保先生、お世話になりました。

■上記のレポートや研究会情報が、高校部会ホームページ「数学のいずみ」(<http://izumi-math.jp/>)に掲載されます。是非ご覧ください。

【次回研究会のご案内】

日時: 令和6年1月27日(土) 13:30~17:30

場所: ZOOMによるオンラインでの開催です。

講師: 筑波大学附属駒場中学校・高等学校教諭

須藤 雄生 様

演題: 駒場的・自由闊達な教材開発生活